

祭り大好き 角館

祭り小物づくりに挑戦！

題材名 自分らしく清潔に着る（15時間）

小題材名 衣生活を豊かにするための工夫「祭り小物づくりに挑戦！」

小題材の指導目標

- (1) 衣生活に関心を持ち、生活に活用できる小物づくりを意欲的に進めようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 衣生活における問題の改善や製作を通して、生活を豊かにするための工夫をする。 (工夫・創造)
- (3) 製作計画に従って、目的に応じた縫い方で製作ができる。 (技能)
- (4) 布を用いた製作品の構成や基礎的な縫い方を理解する。 (知識・理解)

1. 題材について

家庭分野の授業において、意外と苦手意識をもっている生徒が多いのが「衣生活」ではないかと感じていた。流行を取り入れた着こなしには敏感であるが、制服のほころびや裾のほつれ、ボタンがとれていることなどに無頓着な生徒も少なくない。家庭で針を持つ機会も少なくなっている今、小学校で学んだ技能の定着を図りながら生徒一人ひとりの学習意欲を高め、実生活に生かせる作品づくりに取り組ませたいと考えた。

本題材では地域の伝統である『角館の祭り』に着目し、祭りで使う布袋の製作に取り組むことにした。角館は「みちのくの小京都」と呼ばれ、有形・無形文化財を大切に受け継いできた歴史ある町である。学校でも祭りを「ふるさとのよさを見つめる実践の場」としてとらえ支援している。祭りは生徒にとっても非常に関心が高い一大イベントである。出来上がった作品を祭りに生かすという点で、生徒の学習への意気込みの高まりが期待できる。

袋は、下の4パターンの中から選んだ。また、製作には補修で必要となるまつり縫いをする箇所をそれぞれ



小物1

小物2

小物3

小物4

れの袋の返し口に設定し、まつり縫い技術も身に付けることができるようにし、生活での実践力の育成を図りたいと考えた。また、自分でつくることができたという実感を味わわせ、針と糸が身近な存在となしてほしい。同時にこれからの衣の環境を考え、布も資源であり、被服を大切に着用する心もはぐみたいと考える。



2. 学習の流れ

まずは学習活動の場を、祭りの雰囲気が感じられるような環境に整えた。また、家族からのメッセージもいただき意欲を持続できるようにした。そのうえで、「絶対使える袋」をつくるという目標にむけ、「よい袋のポイント」をおさえた。そして、祭りでの自分の役割や各自の必要感からつくりたい小物や色柄を選び、製作に入った。製作のはじめには袋の裏側の仕組みに着目させ、袋のつくりはどうなっているのか、裏はどうなっているのか、どうつくればきれいに仕上がるかといった疑問を大切に取り上げた。指示通りに順番に縫うのではなく、構成や構造を理解して縫うことで、製作が主体的に進み、つくり上げる楽しさも生まれ、生徒が調べ考える学習が展開された。早くできた生徒は、ステンシルで町内名の名札をつくり、まつり縫い

全体計画

		指導目標	指導内容	時数	評価規準
衣生活を豊かにするための工夫 10/15時間	構想	・祭りに使える小物の使用目的を考え、製作品を決めることができる。	・祭りの小物 ・袋の機能 ・布の選択	2	・祭りの小物づくりに関心をもち、積極的に使用目的を考え意欲的に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
	構成	・よい袋づくりのポイントを考えることができる。	・よい袋のポイント ・目的にあった縫い方	1	・よい袋づくりのために縫い方を工夫しようとする。(工夫・創造)
		・それぞれの袋の構成を理解することができる。	・袋のパーツの名称 ・袋の構成	1	・袋のパーツと位置、役割を説明できる。(知識・理解)
		・製作の工程を考えることができる。	・縫う順番	1	・縫う順番を順を追ってまとめ説明することができる。(知識・理解)
	製作	・計画に従って製作することができる。	・しつけ縫い、まつり縫い・安全なミシンの使い方・糸始末の仕方	4	・計画に従って、製作を主体的に進めることができる。(技能)
活用	・製作品の取り扱い方を考え発表することができる。	・取扱い絵表示 ・使用について	1	・つくった思いを大切に、取り扱い方を考えることができる。(知識・理解)	

で付けた。最後に大切に使う気持ちをはぐくむため、取扱い表示を作成させつくった思いを表現した。

を感じている。

3. 指導の工夫

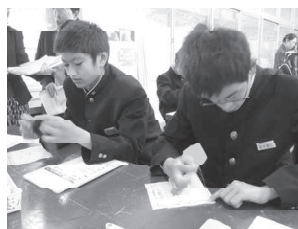
生徒が主体的に製作を進めるうえで「心配なこと」を毎時間シートに記入させ、級友や教師と相談しながら解決し進めていくようにした。また、袋のつくりを調べ、手順を考える活動では、生徒が手にとって調べられるように実物を多く準備した。また簡単に縫ったり、貼り合わせたり、重ねたりしやすいように不織布の型紙も準備した。構造を具体的にイメージして縫うことができれば、製作が主体的に進められるだけでなく、一つ一つの段階でつくり上げる楽しさも生まれた。試行錯誤の時間を大切に、自分で考え判断していくことで、ものづくりの醍醐味も味わえるものとする。

縫う段階での生徒の技能の差や理解面でのつまずきは、基礎縫いの復習の時間をとることやグループで学び合い、個人のがんばりを認め合う時間を取り入れることで対処した。指導者としては、作業の進度や状況を確実に把握し次の指導に生かす大切さをあらため

よい袋 にするためのポイント



よい袋	どうなったらいい?	工夫
丈夫さ	分厚い しっかり縫っている	裏布つける 返し縫いをする 縫い目を細かく
使いやすさ	出し入れしやすい 開けやすい	ファスナーをしっかりとつける
見た目がきれい	形がきれい 縫い目がそろっている	印をまっすぐ、しっかりとつける まち針でとめる しつけ縫いをする まっすぐ縫う



参考文献・参考Webページなど

- ・「小・中・高等学校の系統性に配慮した被服製作題材の検討」
(川合みちる, 谷口明子・平嶋憲子, 中嶋たや, 菱田道代, 河崎智恵・鈴木洋子)